

( 連載「ワイワイガヤガヤ経営品質」 )

### 三重県経営品質協議会運営委員長 長友隆司 ( Kairos 社長 )

#### 道具に頼るな道具から逃げるな

三重県人が「ホームに帰ってきた」と実感するのは、多くの場合、木曾川、長良川、揖斐川にかかる長い橋を渡る瞬間ではないでしょうか。鉄橋を電車の車輪が通過していく音、車が川風を切り裂いていく音に「帰ってきたんやなあ」と息が抜けるわけです。

揖斐川はかつて畿内と坂東とを分ける境界でした。ゆえに木曾義仲は坂東武者だし、三重県は近畿地方だという分類になるのでしょうか。江戸時代、桑名と熱田の間が海路で隔てられたのも、古人の地政学的な常識がそうさせたのかもしれませんが。

幼い頃、潮干狩りで桑名に出かけました。国道 1 号線の橋詰に船溜りがあって、そこから伊勢湾の方へ引き潮に乗って船を滑らせます。沖合いに煙る初夏の霞の先に井戸を掘る櫓がありました。「あれは？」と尋ねると「なんや知らんけど温泉掘っとるらしいナア」と船頭さん。今にして思えば長島温泉を掘っていたのでしょうか。船を降りて浅瀬の泥に手を入れると子供の手には掴み切れないほど大きな蛤が海一面に沸いていました。高度経済成長が始まったばかり、まだまだ透き通った伊勢湾が広がっていた昭和 30 年代前半の話です。

時代を少し遡って昭和 20 年代に創業されたお会社には「光」という字がついていることが多いとうかがったことがあります。戦争でなにもかもなくなってしまったわが国を悲観するのではなく「もう一度立ち上がるんや」「産業界や社会に光を届けるんや」という思いを込めて「光」という言葉を選ばれているのだと先輩から教えてもらったことがあります。

桑名にも「光」という言葉に強い思いをお持ちの会社があります。2005 年度三重県経営品質賞知事賞を受賞した「光精工株式会社」です。優れた金属加工技術を持ち、ユニバーサルジョイントと呼ばれる自動車部品の生産では世界一のメーカーです。

その工場を見せていただいたことがあります。最新の加工設備に混じって古い設備をきちんとメンテナンスして使い続け、高度化する顧客要求に見合う品質やコスト、納期の実現を達成していらっしゃる様子を見ていると「道具は使う人間に依存する」ということをつくづく思いしらされます。

経営品質では過度の「道具依存」をたしなめますが「道具を使わないと仕事ができない」のも事実です。仕事はふさわしい道具によって具体的な製品やサービスという価値を生み出します。最近ではコンピュータという道具抜きに仕事を考えることはできません。徒手空拳では文字一つ書くこともできません。ある意味、仕事は道具に依存しています。

同じように道具もまたその使い手に依存しています。名人上手が手に取れば切れ味鋭く、凡人下手が扱えば鈍器の如くというのはよく聞く話で、昨今の技能伝承の根も同じ。

古くてもメンテナンスを続け、最新設備に負けない製品を実現する。それは道具に依存するとかしないとかいう次元の話ではありません。道具と仕事、仕事と人、人と道具という相互依存関係にきちんと向き合うかどうかという話です。三者のどれが欠けても価値は生まれません。「道具に過度に頼るな」というのは、至極当然な話かもしれませんが、「道具から逃げてはいけない」というのも生産現場が教えてくれる真実。

道具は使い手の力量を試す。